

ふじえだスマート・コンパクトシティの形成



実施地域	静岡県 藤枝市
実施団体	プロジェクトの実施団体名

対象
都市課題

対象地域の特徴・課題・目標
(目指すスマートシティ像)

I. 藤枝市の概況

藤枝市は静岡県のほぼ中央に位置し、人口約14万5千人、面積約194km²の都市である。JR東海道本線、国道1号、東名高速道路、新東名高速道路が東西に走り、富士山静岡空港にも約35分でアクセス可能な交通の要衝となっている。

II. 都市の対応すべき主な課題とスマートシティ事業の目標

① 商業集積の低下と民間バス路線の縮小

- (1) 郊外・中山間の交通弱者増加への対応
→路線バスと乗合タクシーの利用者数

② 製造品出荷額、就業人口が減少傾向

- (1) 産業の持続性・担い手減少への対応
→ICT人材と市内企業のマッチング数

③ 人口減少・超高齢化社会の到来、若年層の市外への流出

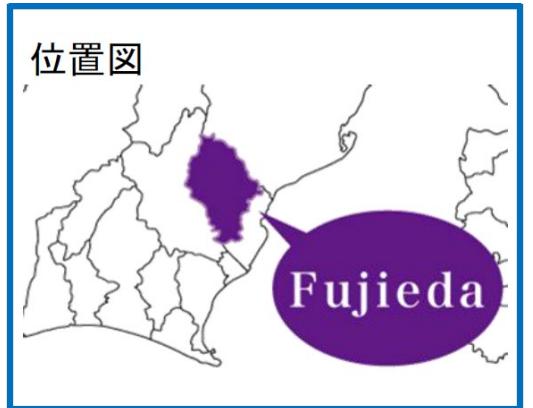
- (1) 人口減少社会への対峙
→施策推進におけるデータ活用 (EBPM)件数
- (2) 若い世代の流出抑制
→子育て世代 (20~40代) の転入者数

④ 南海トラフ地震などの自然災害対策

- (1) 自然災害リスクの拡大抑制
→災害時情報配信システム登録人数

III. 事業のセールスポイント

藤枝市の重点戦略である4K (健康・教育・環境・危機管理) とコンパクト+ネットワークのまちづくりと連動し、市民の利便性向上につながる先端技術導入及び各施策のEBPM推進に向けたデータ連携基盤 (都市OS) の活用



◇ 技術・データを活用した都市・地域の課題解決への取り組み

□ 人流解析等によるスマート・プランニングに向けた「市民参加型4Kソリューション」の構築

市の4K施策（健康・教育・環境・危機管理）と連動し、市民の利便性向上と行動変容につながるソリューション（アプリケーション）の活用。施策推進における根拠となるパーソナルデータの収集を目的とし、データ活用が市民生活をより安全・快適・便利にする好循環を創出する。

□ AIによる都市強靱化・災害対策

水位計や雨量計と過去の水位・雨量のデータセットをAI等で分析し、市民の安全安心の確保と市内産業の事業継続、持続的な発展につなげるべく、浸水常襲地区を中心に河川ごとの水位予測モデルを検証する。

□ オープンイノベーション推進環境の構築

ICTを活用した市民サービスの質の向上や市内産業のパワーアップを目指し、地域課題や今後導入すべき市民サービスなどをテーマに、課題解決型実証実験の公募を行う。

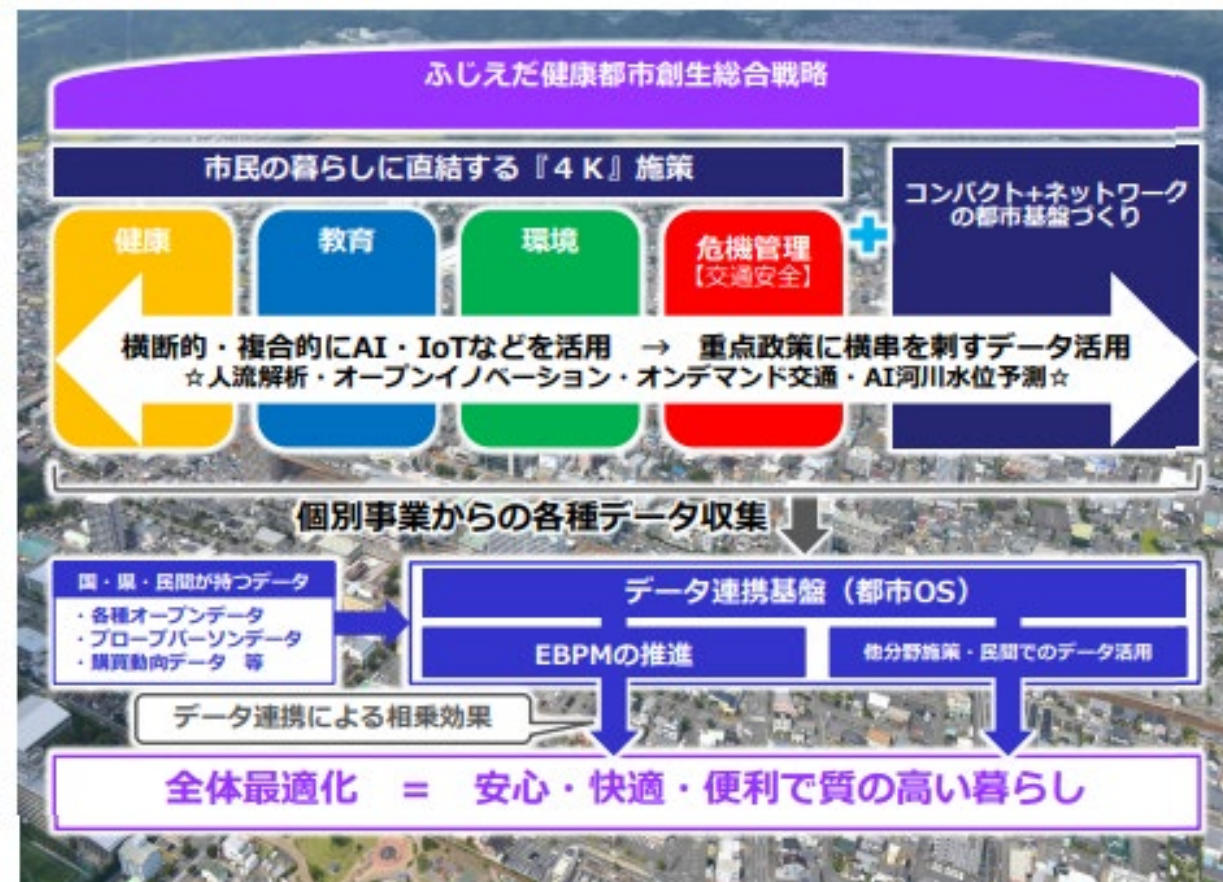
□ 藤枝版クラウドソーシングシステムの構築・運用

市内産業の業務効率化及び市民の多様な働き方の実現（テレワーク環境推進）に向け、時間や場所を選ばないクラウドソーシングを導入し、個人所得の向上と地域経済の活性化を図る。

□ 「オンデマンド交通」による拠点間ネットワークの強化

郊外・中山間地域の拠点と中心市街地や商業施設などの拠点を結ぶネットワークの形成に向けた携帯電話の基地局データや各種プローブデータによる人流・交通解析及び需要予測。

■ 本事業全体の概要

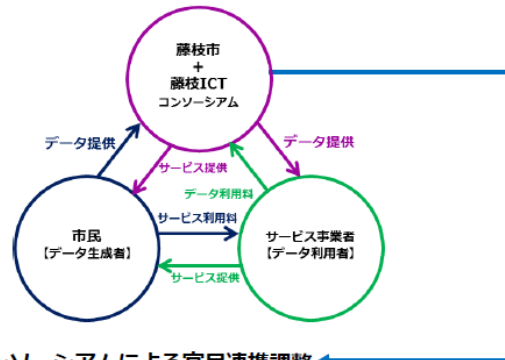


◇ 実施体制図

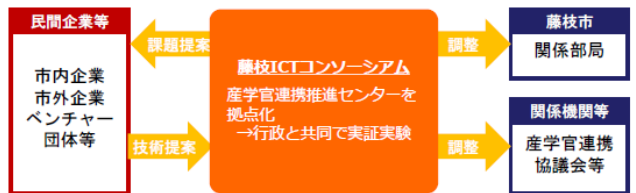
取組	実施主体
全体(事務局・支援)	藤枝ICTコンソーシアム、藤枝市、ソフトバンク(株)
人流解析・4Kソリューション	藤枝市、ソフトバンク(株)
オープンイノベーション	藤枝ICTコンソーシアム、藤枝市
オンデマンド交通	藤枝市、公共交通事業者 MonetTechnologies(株)
水位監視	(株)イトラスト、ソフトバンク(株)
都市OS	藤枝市、藤枝ICTコンソーシアム、ソフトバンク(株)
その他	藤枝ICTコンソーシアム参加企業約100社

<データプラットフォームを活用した管理運営ビジネスモデルビジネスモデル案>

- ・産学官連携組織である藤枝ICTコンソーシアムをハブに、運用コストを捻出できるデータ利用の仕組みを構築
- ・市が進める4K施策(健康・教育・環境・危機管理)の切り口で課題を解決したり、暮らしが安心・快適・便利になるサービスソリューションを構築したりする中で、住民に対しては、その対価としてのデータ活用に理解を求める



藤枝ICTコンソーシアムによる官民連携調整



◇ プロジェクトのスケジュール

2017年度～2019年度

ステップ1
LPWA環境整備によるIoT活用実証

ソフトバンクと連携したLPWA環境構築及びIoT活用実証実験実施。

2020年度～

ステップ2
オープンイノベーションによる個別最適化

異業種、異分野が持つ知見やサービスなどを組み合わせ、個別の地域課題解決に向けたオープンイノベーションを推進

2021年度～

ステップ3
収集データの横断的活用

4K事業におけるデータ収集を目的に、重点施策のデジタル化やアプリを活用。収集されるデータを基に課題解決に向けた横断的最適化
→施策と連携したEBPMの推進

2024年度～

ステップ4
データ連携基盤構築
都市整備の具現化

まちの全体最適化を推進するデータ連携基盤(都市OS)の構築
スマート・コンパクトシティの具現化を図る都市基盤整備を実施

◇ その他 (受賞歴、政府が進めるスマートシティ事業への選定 等)

【表彰】 第1回コンパクトなまちづくり大賞 総合戦略部門 国土交通大臣賞

受賞理由：藤枝市では、官民連携による中心市街地への都市機能の誘導や中心市街地の既存ストック高質化と活用による賑わい創出、スマートモビリティへの挑戦、官民連携による身近な移動手段の確保やICTを活用した防災まちづくりなど、都市課題への対応策が多彩であり、計画自体もよく分析をされている。なかでも、市有地を官民連携で活用した活動・交流拠点づくりや道路空間や駅前広場等を活用した賑わいの創出と回遊工場の取組み等既存ストックを活用した街づくりが優れていると評価されました。

【モデル事業選定】 国土交通省「スマートシティモデル事業」の先行モデルプロジェクトに選定 (2021)